

南大分地域 まちづくりビジョン

後世に自慢できる住みたくなる街、みなみ大分



南大分地域ビジョン会議

平成30年7月

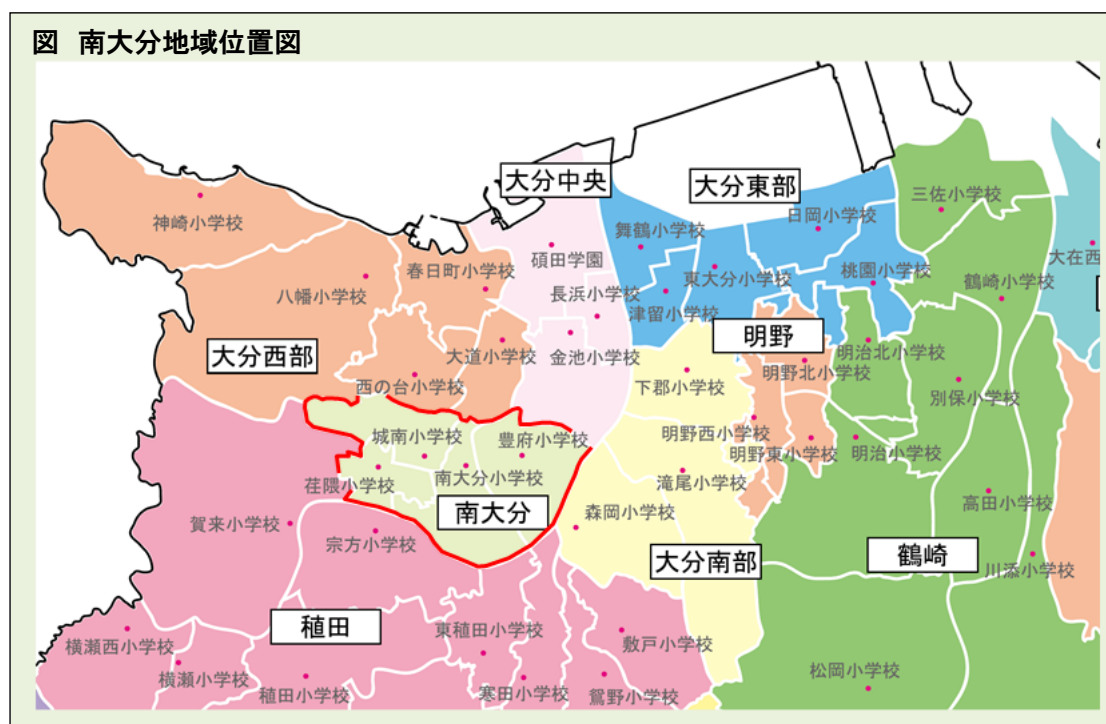
第1章 地域の特徴

1 地理的特性

南大分地域は、大分市中心部の上野から庄の原までの東西にわたる丘陵地の南側、大分川に抱かれるように、その左岸に沿って位置しています。

地域内を国道210号、国道10号、国道442号などの幹線道路が通っており、植田、野津原、挾間、由布市、大南地域への分岐点となっています。また、久大本線が地域内を横断しており、JR古国府駅、JR南大分駅の二駅があり、交通の要衝となっています。

これらの特性から、バス路線が集中しているほか、通過交通も多く、通勤・通学などの交通量が非常に多い地域となっています。



2 歴史的・文化的特性

【古墳時代】大分前史

南大分周辺の高墳は、丘陵地の東から大臣塚(上野)・弘法穴(永興)・古宮(椎迫)・蓬萊山(庄の原)・丑殿(片面)・千代丸(宮苑)古墳などがあり、さらに南太平寺に

横穴古墳があります。これらは豪族大分君一族や在地小首長の墓であり、こうした一族が、大分川流域の賀来・南大分・上野周辺を統治していたことを示しています。

【古代】豊後国の国都

南大分はかつて大分郡(おおきだのこほり)荏隈郷といわれ、植田郷とともに大分のあけぼのの地として早くから開かれた土地で、律令時代には豊後国の国府が置かれ、飛鳥・奈良・平安期そして鎌倉期の中ごろまでの約500年間豊後国の国都として栄え、政治・経済・文化の中心地でありました。

往時、古国府から羽屋にかけて大分川の河口で、自然の良港を背景に国庁が造営されました。その後、古国府から永興にかけ、金剛宝戒寺、岩屋寺、祇園社、印鑰社、太平寺、清水寺、永興寺などの寺社が建ちならび、一大仏教文化が開花しました。

また、大宰府と豊後国府を結ぶ官道「豊後道」がつくれ、その終着駅は古国府の上野台地近くにあったと言われている高坂駅でした。さらに条里制に基づく田んぼが大石町・永興・上田町・羽屋・古国府などにあり、昭和30年代までその名残がありました。

【大友時代：鎌倉・南北朝・室町・戦国期】大友家臣団の地

鎌倉時代中期になると、大友氏が勢力を拡大、今の元町、顕徳町、錦町、長浜一帯を開発しはじめ、政治、経済、文化の中心地となりました。南大分は、かつての国都としての輝きはなくなりましたが、大友時代の府内の町の入り口であり、豊饒氏など大友家臣団の地でもあり引き続き栄えました。

【府内藩時代】府内藩の里郷として農村地帯となる

大友氏が改易され江戸時代(府内藩)になると、南大分は府内藩の里郷として再出発しました。里郷の組織は上村組(上村・永興・井蕉・田中・奥小路・尼ヶ瀬・竹上・太平寺)と古国府組(古国府・律院・六坊・羽屋・豊饒・畑中)とに分かれ、上村と古国府に大庄屋、各村に庄屋が置かれました。

1650年、府内藩主の日根野吉明は大友22代義統が開いた国井手を延長して初瀬井路を完成させました。これによって南大分一帯に新田が開発され、石高が大幅に増えました。

【明治・大正・昭和時代】南大分は最初に「大分市」となった地域のひとつ

維新後の明治時代、南大分は荏隈村(永興・荏隈・奥田・三芳)と豊府村(古国府・上野・羽屋・豊饒・畑中)を形成しました。明治44年、大分町・西大分町・荏隈村・豊府村が合併して「大分市」が誕生しました。

また、明治になって明礮橋が架橋されると、堀切峠(江戸期に開削)から三ヶ田町、田中、明礮を抜け、植田、熊本方面へ続く新道が通り、沿道には商店街が発達、なかでも、三ヶ田町は昭和30年頃まで、大分市有数の商店街として活況を呈しました。

■ 史跡・伝統文化



◆ 弥栄神社〔やさかじんじゃ〕

豊府の岩屋寺に鎮座したのが始まりです。後に大友氏初代能直〔よしなお〕が国中の疾病流行退散を願って、京都の祇園社を勧請し、以来、大友氏の尊崇が厚く、江戸時代に入ってから歴代の府内藩主が崇敬しました。

江戸時代には、祇園社(祇園宮)の呼称で呼ばれていましたが、明治以後に弥栄神社と呼ばれるようになり、明治6年(1873)に郷社、大正5年(1916)に県社に昇格しました。

現在行われている夏祭りは祇園祭りの名残りで、大友時代の府内のまちに大友宗麟も当主棧敷に陣取り山車を見物したといわれています。

上野丘に移されて400年を記念し、「弥栄神社遷宮・再建400年祭」が執り行われました。



◆ 蓬萊山古墳〔ほうらいさんこふん〕

庄ノ原丘陵の中央部南寄りにある前方後円墳です。

墳丘には葺石(ふきいし)がみられ、主軸は概ね東西方向で、全長60m、墳丘周囲に掘られた周溝を含めると全長は約80mに達します。

古墳の平面形は柄鏡形(えかがみがた)で、前方部が狭く低い古式の特徴を示しています。

墳丘からは壺型埴輪が見つかった一方で、円筒埴輪が用いられていないことなどから、4世紀代に築かれたと考えられます。



◆ 永興正八幡社〔りょうごしょうはちまんしゃ〕

正八幡社は、鹿児島神宮より分祀されて1250年を経ており、住民の守り神となっています。

現在の神殿・拝殿は昭和8年頃改築されたものであり、天満社のほかに城南神社と三社を拝しています。



◆伽藍石仏〔がらんせきぶつ〕

「ガランさま」「伽藍大明神」などと呼ばれている杵築神社と、小道を挟んだ向い側の崖に三つの窟龕があります。

中にあるのが、大分市指定史跡の伽藍石仏であり、三つの石窟にある磨崖石仏は、鎌倉時代末期から室町時代の製作と推定されています。

大友氏時代、この一帯に太平寺という寺院(天台宗と伝えられる)が勢力をもっていました、その寺院ゆかりのものとされています。



◆豊饒天満社〔ぶにようてんまんしゃ〕

豊饒天満社は村民の願望により昔は字光屋に創建されていました。

明治18年には、大分県令西村亮吉氏により村社に昇格し、明治30年頃、内蛙手128番地に新築遷宮され、大正13年大分市水道建設に伴う道路拡張により神社地を分与し移動しました。

その後、住民の合意により昭和54年に現在の場所に遷宮されています。

天満社の創建された時期は不詳ですが、慶長5年(1600年)以前からあったものと考えられています。



◆永興寺〔りようごじ〕

江戸時代からあった釈迦堂を昭和24年より永興寺と改め、天台宗より真宗に転じたもので、かつて当地一帯に広大な寺域を占めていた古い大寺(永興寺)の門前辺りに位置するといわれています。

寺跡からは奈良時代の古瓦が出土し、当寺が奈良時代から続いていたことを示しています。



◆大国社〔おおくにしゃ〕

大国社は、大国主命(大己貴命)を祭神とし、地元では古来より「インニャクさま」と呼ばれてきました。

インニャク(印鑰)とは、朝廷から赴任した国司が管理する印章や倉庫の鍵にかかわる言葉といわれ、宮崎県西都市にも大己貴命を祭る印鑰神社があります。

現在、弥栄神社の夏祭りでは、ここ大国社がお旅所(たびしょ)の役目を果たしています。

第2章 地域の現状、市の施策

1 土地利用の状況

近年では、大分市の中心部へのアクセスの良さから、地域内の市街化区域では宅地化が進行しています。

北側の丘陵地では、比較的大規模な住宅団地が開発されている一方、古くからのまちなみでは、農地の宅地化が進み、住宅が密集し、道路が狭隘な地域が多くあります。

また、国道などの幹線道路の沿線には、ロードサイド型の商業施設が多く立地しています。

2 住民交流

(1) 住民交流

みなみおおいた夏祭りや豊府祭りなどの地域の祭りや、運動会などのイベントには、地元の小中学生が一緒に取り組み、地域の連帯感を醸成しています。



◆みなみおおいた夏祭り

(演目)

・健康体操 ・校区の小中学生による町内対抗玉入れ大会 ・雄城台高校書道部パフォーマンス ・幼稚園演技 ・子ども神輿巡業 ・Chimo & Niimosyo- ・小潮太鼓 ・阿蘇の神楽 ・フラダンス ・豊後潮太鼓 ・みなみおおいた総おどり

(イベント)

・おたのしみ抽選会 ・人権協アンケート

(常設)

・屋台(70店) ・地震体験車



◆豊府祭り

(演目)

・南大分中学校吹奏楽 ・幼稚園児や小学校児童の踊り ・新体操 ・ソーラン節 ・新舞踊 ・フラダンス ・神楽 ・豊府高校吹奏楽 等

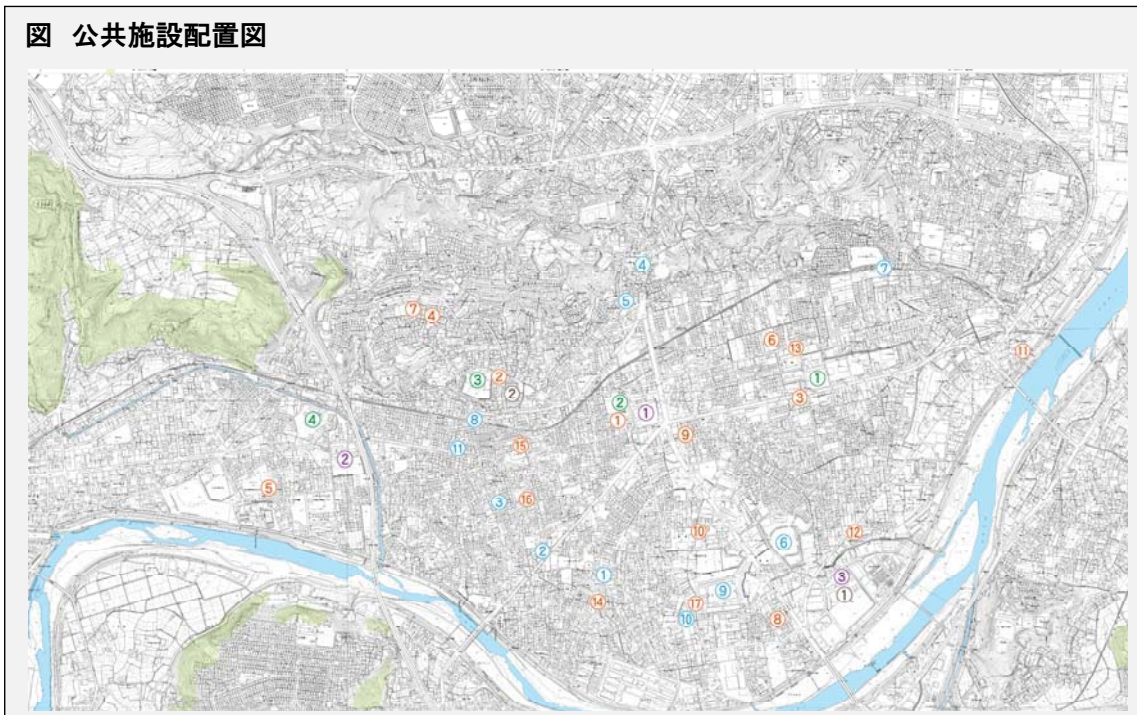
(常設)

・ふわふわドーム ・地震体験車 ・露店

3 地域内の公共施設等

地域には、大分県の代表的な中核病院である大分県立病院が立地しています。多くの市民が利用できる南大分スポーツパークが設置されている一方、各校区内には、小規模な公園が点在しています。

図 公共施設配置図



市の施設		スポーツ施設		その他公共施設	
①	南大分公民館	⑥	南大分スポーツパーク	⑨	大分県立病院
②	南大分分署(消防)	鉄道駅		⑩	南大分地域包括支援センター
③	情報学習センター	⑦	JR 古国府駅	⑪	城南・賀来地域包括支援センター
④	旭町文化センター	⑧	JR 南大分駅		
⑤	旭町児童館				

幼稚園		⑨	南大分保育園	小規模保育	中学校		
①	南大分幼稚園	⑩	コスモス保育園	⑰	ゆめっこ保育園	①	南大分中学校
②	城南が丘幼稚園	⑪	ふたば保育園	小学校		②	城南中学校
③	豊府幼稚園	⑫	こどもの森すぷらうと	①	豊府小学校	③	大分豊府中学校
④	城南幼稚園	⑬	スマイス・キッズ保育園	②	南大分小学校	高等学校	
⑤	えのくま幼稚園	認定こども園		③	城南小学校	①	大分豊府高等学校
⑥	愛隣幼稚園	⑭	ごとう幼稚園	④	荏隈小学校	②	福德学院高等学校
保育所		⑮	ゆりかごこども園				
⑦	城南保育園	⑯	いちご保育園				
⑧	府内保育園						

4 指定避難所

本地域には指定避難所が6箇所設置されています。



■指定避難所

校区	施設名	地震	洪水	がけ崩れ等	津波	避難所の 海拔
豊府	①豊府小学校	○	○	○	○	9m
南大分	②南大分中学校	○	○	○	○	13m
	③南大分公民館	○		○	○	10m
	④南大分体育館	○		○	○	7m
城南	⑤城南小学校	○	○	○	○	33m
荏隈	⑥城南中学校	○		○	○	11m

5 市民との協働によるまちづくりの取組

(1) 地域まちづくり活性化事業

地域課題解決のための事業を地域住民が主体的に考え、市民と行政が協働で取り組み、地域活性化の新たな魅力創出につなげることを目的とした事業です。

南大分地域では、「みなみおおいた未来創造まちづくり」をテーマとして、下記のような事業を実施しており、どの事業にも、三世代交流の場として、たくさんの人が積極的に参加しています。

【平成28年度実施】

テーマ:みなみおおいた未来創造まちづくり

内容:花を植える、あいさつ運動、地域交流 など

(2) 南大分地域のまちづくり活性化事業の展開



◆みなみおおいた

未来創造まちづくり報告会
取組事例の報告会と講演会を開催しています。

事業ごとに報告をし、まちづくりの意欲を喚起するとともに、今年度の反省および次年度以降の事業方向の指針を決定する場となっています。

また、27年度から同時開催とした外部講師による講演会が好評です。



◆ひまわり・コスモス栽培事業

自治会内に花壇やプランターを設置し、地域の環境美化およびコミュニケーションの場を提供し、作業を通じ地域住民のつながりを深めています。

当初は自治会役員だけで始めましたが、多くの自治会において町内有志、老人会、子供会等に活動の広がりを見せています。



◆あいさつ・パトロール事業

あいさつ運動、安全パトロールを校区ごとに実施し、コミュニケーションの活性化を図っています。地域でも学校でも子どもたちのあいさつがよくなったという声が聞かれ、地域に浸透してきた感があります。また、パトロール活動への参加も定着してきました。



◆みなみおおいた発見！！

歩くDay事業

地域の再発見、健康づくり、住民の交流を図るウォーキングを行っています。地域の組織と連携し、説明者に地域の人材を生かした運営、開催をしています。

平成 29 年度で7回目の開催となり、3コースに分かれ実施しました。毎年150人前後の参加応募があり定着してきました。

また、公民館の講座とも絡め、南大分を楽しく説明できる人材を増やしていこうと試みています。

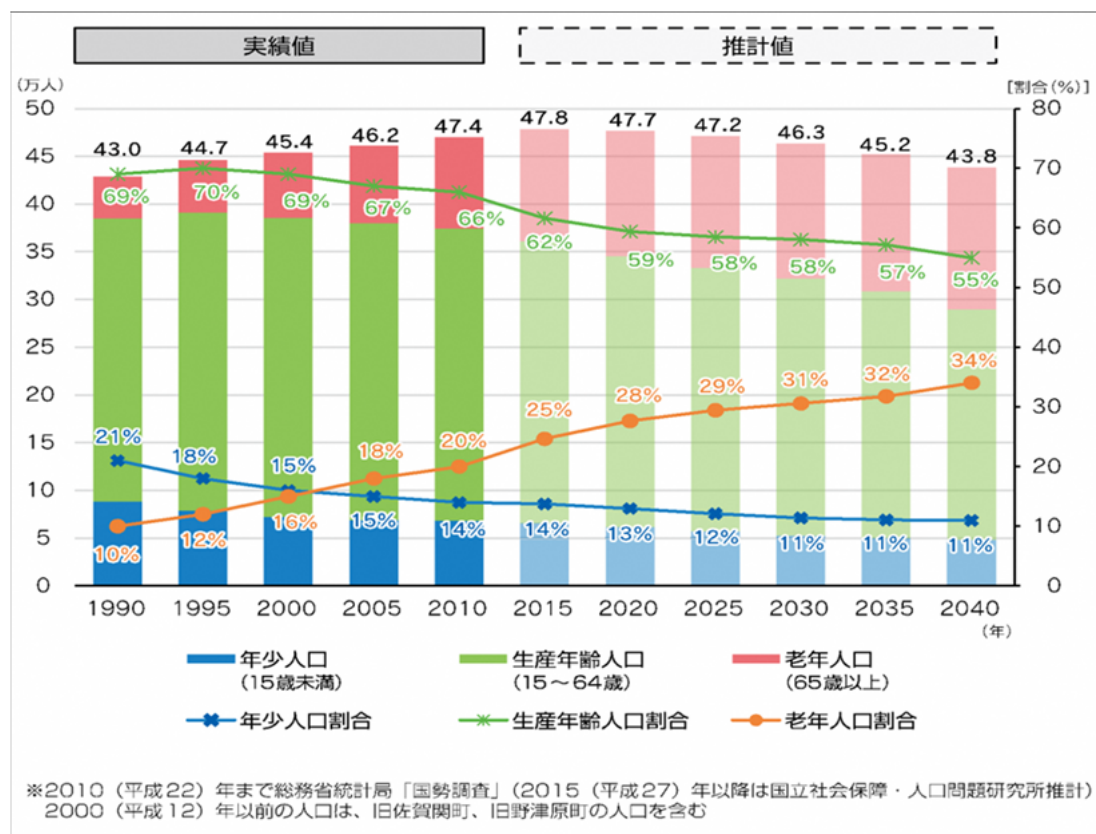
第3章 人口推移と将来推計

1 大分市の人口推移と将来推計

(1) 総人口・年齢3区分別人口の推計

2010(平成22)年国勢調査を基本に、2013(平成25)年3月発表の国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の数値を用い、将来人口を推計しています。

また、社人研の推計によると、このままの状況で人口が推移していけば、2010(平成22)年から2040(平成52)年までの30年間で、本市の総人口は約3.6万人、生産年齢人口(15歳～64歳)は約6.5万人減少すると予測されています。一方、老年人口(65歳以上)は約5.3万人増加し、高齢化率は34%に達すると予測されています。

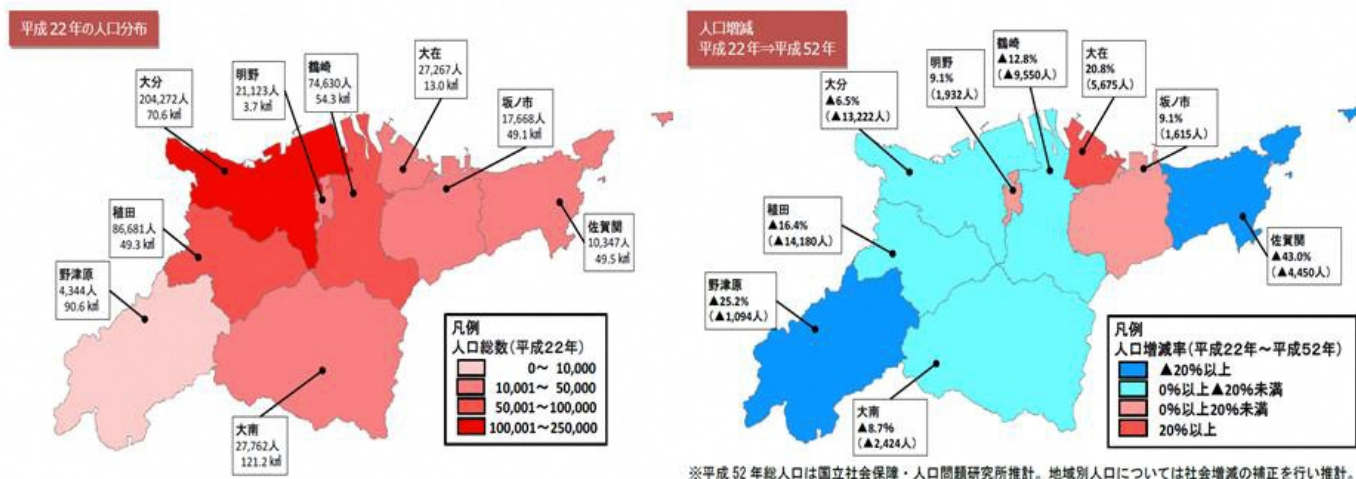


- 本市の総人口は平成27年頃をピークに緩やかに減少に向かう見込みです。
- 今後30年間で総人口は約3.6万人、生産年齢人口は約6.5万人減少。
- 老年人口は約5.3万人増加、人口割合は20%から34%へ14ポイント上昇。

2 南大分地域の人口推移と将来推計

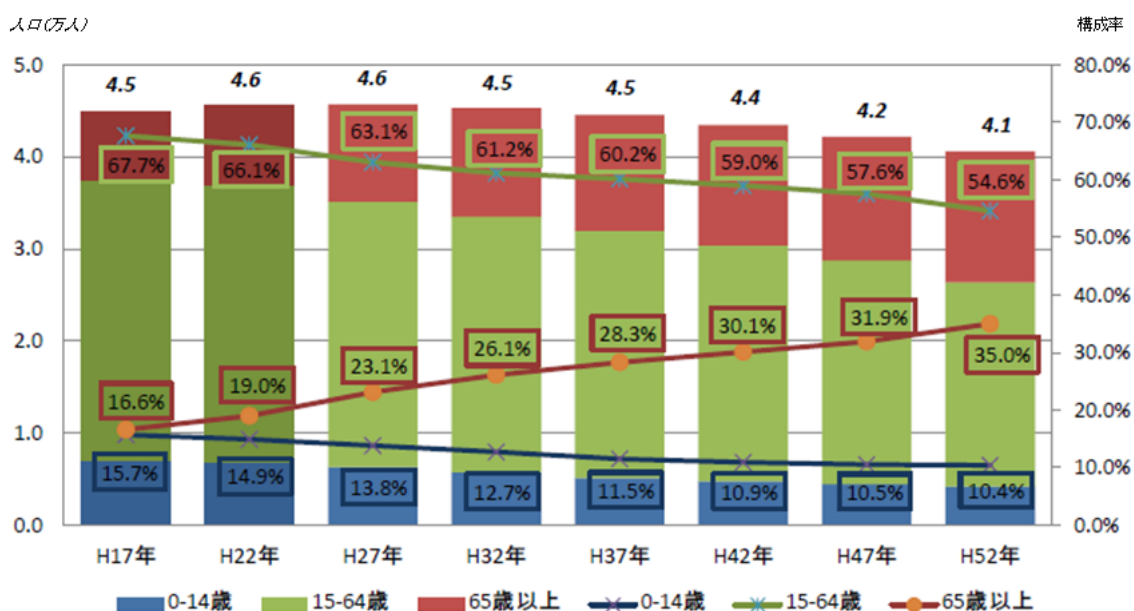
(1) 大分市の人口動向 (地域の将来人口)

今後30年間(平成22年→平成52年)の地域別(支所管轄を基本とした9地区)人口推計



- 本市の総人口の減少に伴い、多くの地域で人口増加が見込めない状況です。
- 佐賀関地区(△4,450人 △43.0%)、野津原地区(△1,094人 △25.2%)においては、地域人口に対する減少率が特に大きくなっています。
- 同じ市内でも地区ごとに年齢構成や人口動態が大きく異なっているため、課題の抽出や対策について、それぞれの地区ごとに検討する必要があります。

(2) 地域別の人口推移 (南大分地域)



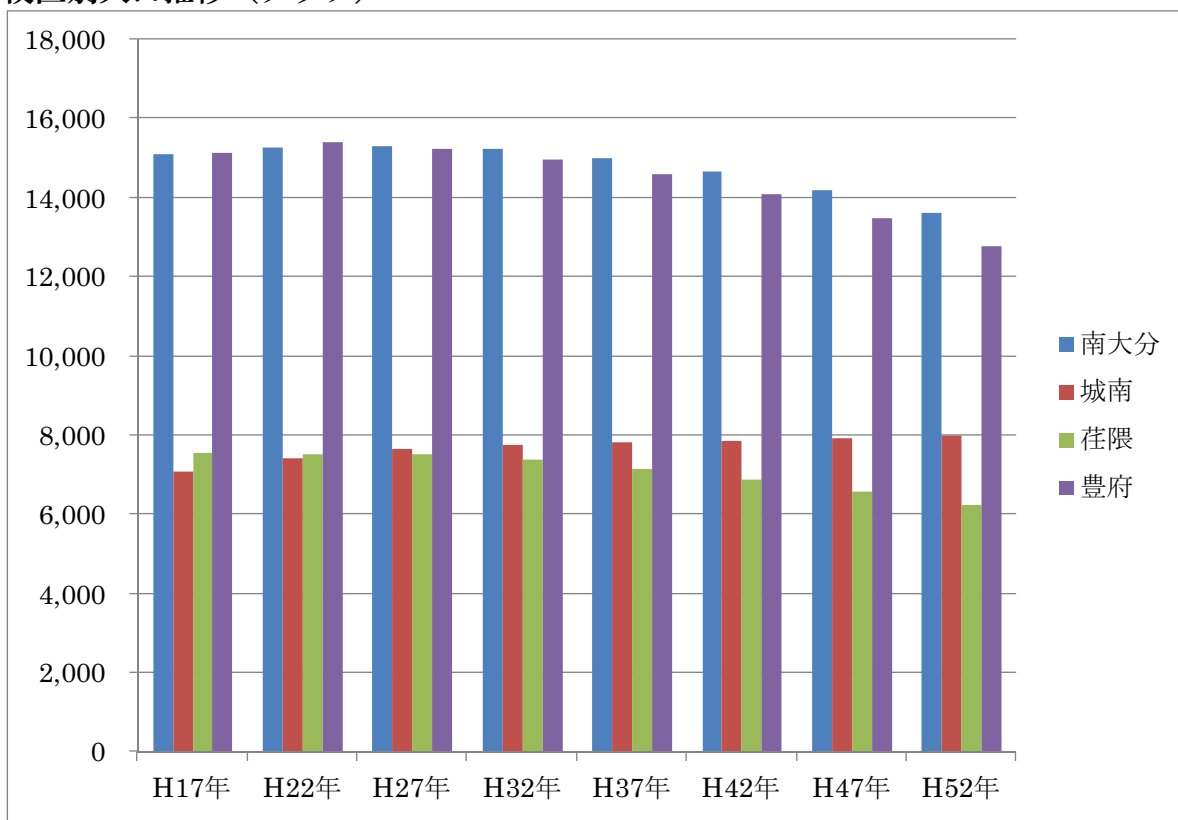
- 南大分地域の人口は、市の総人口の約9.6%を占めています。30年後は人口が減少する見込みで減少率(約△10.9%)は本市全体(約△7.6%)よりやや高くなっています。
- 地域内の年少人口の構成率が本庁管轄内の他の地域より低く、高齢者の割合が高くなっており、今後も人口が減少していく見込みです。

(3) 校区別の人口推移（南大分地区）

校区別人口推移（表）

校区	H17年	H22年	H27年	H32年	H37年	H42年	H47年	H52年
南大分	15,097	15,272	15,307	15,229	15,005	14,653	14,180	13,610
城南	7,091	7,411	7,659	7,756	7,836	7,860	7,931	7,993
荏隈	7,557	7,508	7,514	7,375	7,163	6,899	6,589	6,237
豊府	15,125	15,396	15,243	14,970	14,587	14,090	13,475	12,764
合計	44,870	45,587	45,723	45,330	44,591	43,502	42,175	40,604

校区別人口推移（グラフ）



○校区別の人口推移につきましては、城南校区においては現状より増加する一方、南大分、荏隈、豊府校区においては減少傾向にあります。
 ○南大分全体では27年度から比べると52年には5千人近く人口が減る見通しです。

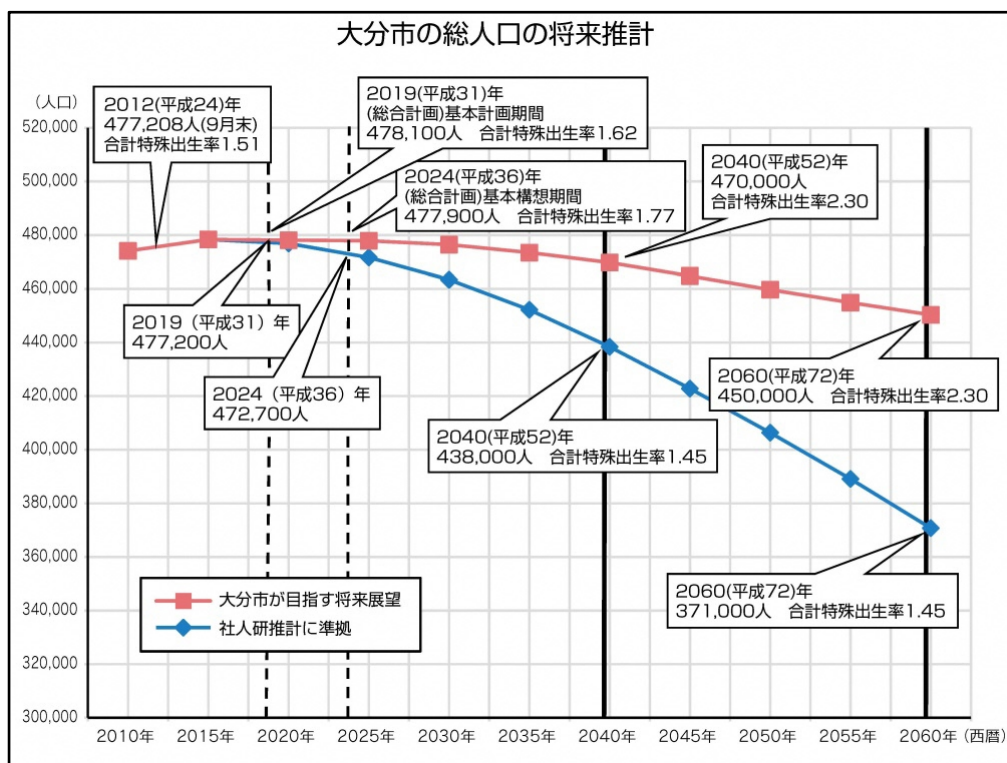
3 大分市の人口ビジョン

本市においては、国や大分県の将来展望を勘案するなか、県都大分市としての責任を果たすため、自然増については、市民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現に向けた取組のさらなる充実を図ることにより、2030(平成42)年までに合計特殊出生率を2.0程度まで高め、2040(平成52)年には2.3程度まで高めることとします。

また、社会増については、今後も東京圏を中心とした大都市への人口流出が懸念されることから、大分県全体を鑑みるなか、大分県外から、特に東京圏を中心とした大都市からの転入者を増やすことを目指していきます。

このように自然増対策と社会増対策に取り組むことにより、人口減少に歯止めがかかり、2060(平成72)年の本市の人口は、45.0万人程度となります。

大分市が目指す将来展望 2060(平成72)年 人口45万人程度



第4章 地域の分析

1 SWOTによる地域の分析

南大分地域ビジョン会議では、地域の特性を把握し、今後のまちづくりの方向性を導くための手法としてSWOT分析を行い、次頁のような結果が得られました。

◆SWOT分析とは・・・

SWOT分析は、地域特性を、地域の内部環境に関する事項なのか、外部環境に関する事項か、強み又は機会なのか、弱み又は脅威なのかを分類整理する方法です。

多岐にわたる意見を体系化するのに適しており、地域の持つ強みや弱み、その地域が置かれている環境などを掘り下げるのに有効なツールです。



SWOT図

S 強み

①各種立地特性等恵まれた生活環境

- ・病院が多い
- ・インターの使い勝手が良い
- ・住宅開発の余地があり、人口増加の可能性あり
- ・河川敷 明礮橋～府内大橋の風景が好き
- ・南大分は便利がよく、大分の中心部に行ける
- ・4つの小学校と2つの中学校がある。
(小学校が自校方式給食)
- ・古国府駅と南大分駅がある
- ・昭和28年以降大分川が氾濫していない

②南大分にある豊富な歴史文化

- ・大分の発祥地・歴史文化が多い
- ・南大分の強みは歴史の宝庫であるところ

③子どもたちへ生きる力を育む活動の継続

- ・生きる力を育む小学校、中学校のあいさつ運動。これからも続けて欲しい。素晴らしい活動

④恵まれた地域交流

- ・みなみおおいた夏祭り・豊府まつりを盛大に実施
- ・ボランティアの「力」「組織」が優れている
- ・小学校区(4つ)ごとの団結が強い

O 機会

①各種既存施設の活用方策の検討

- ・県立病院を活用する
- ・大分川の堤防の活用(サイクリング・ウォーキング等)
- ・南大分は文化施設に徹すべし
- ・南大分スポーツパークの活用

②求められる各種地域交流の活性化

- ・みなみおおいた夏まつりを南大分地域全体の祭りとしてしたい
- ・ウォーキング、サイクリング、町内対抗運動会の実施
- ・50代60代の方々を行事に引っ張り出す活動が必要
- ・退職した公務員の方が、町内の役を受けてもらえればありがたい
- ・地域の文化祭の強化拡大

③求められる各種歴史文化教育施策の充実

- ・学校教育に郷土の歴史を
- ・数ある古墳、文化財を後世に残す方法を
- ・史跡に案内板、説明板を設ける
- ・知識を広め、学ぶ場所が必要
- ・南大分の歴史教育を地元の子供達にすべき
- ・歴史マップを作ったらよいのではないか
- ・大友宗麟の大河ドラマ化を南大分で後押し

④子どもや高齢者福祉の充実、サポートの必要性

- ・高齢者と子どもたちとのふれあいの場が必要
- ・買物支援・子育て支援の場を増やしてほしい
- ・福祉ネットワークが必要である
- ・高齢者と子どもと一緒に遊べる公園づくり
- ・高齢者や障がい者を助けられる地域を作りたい

⑤求められる公民館の新設

- ・地区公民館の新設
- ・地区公民館をぜひ羽屋付近に
- ・各校区に校区公民館が必要
- ・南大分校区公民館がほしい
- ・豊府校区に公民館がない。幼稚園と一体化した公民館を作ったかどうか
- ・公民館、歴史(教育)、小・中の現場(あいさつ、ふれあい方)
- ・南大分トキハ周辺を再開発し、ターミナル、商業施設、公民館、防災拠点、市民の集いの場、公園など複合施設を整備する

⑥新しい公園の新設

- ・公園の整備、大分市全体にいえることであるが大規模な都市公園がない(別府公園のような)
- ・子どもや老人が喜べ、災害時にも活用できる多目的に使える大きな公園がほしい

⑦店舗の誘致や整備等商業施設の活性化

- ・トキハインダストリーを大きく
- ・城南団地に商業施設を(買物難民対策)
- ・南大分と中心部ににぎわいの場がほしい(コンパルホール+○○)

⑧各種交通整備に関する改善策の検討

- ・高齢者の電気バイクが安全に走れる広さの道路
- ・道路幅員・10号線、210号線の渋滞緩和
- ・ロータリーを南大分に作りどの路線にも乗り換えができる構造アクセスの検討ができたなら

⑨交通網の充実等公共交通の改善

- ・庄の原地区にバス運行再開してほしい
- ・南大分駅、古国府駅の間にもう一つ駅が欲しい
- ・公共交通を市が経営するようにする(バス路線の充実)
- ・JR駅(南大分駅、古国府駅)活用 ※JRは渋滞なし

⑩地元企業等の活性化と雇用対策の推進

- ・異業種の交流の活性化
- ・中、小の企業が元気な地域が発展していく
- ・若者に良い仕事環境を

⑪住宅地開発の推進

- ・住宅開発の余地が南大分にはある。人口増の可能性がある

W 弱み

①地域行事の減少や不参加等地域コミュニティが抱える問題

- ・町内対抗運動会が無くなった
- ・南大分全体が一体となる祭りが無い
- ・地域行事の参加者が少ない
- ・地域活性化の拠点となる校区公民館が無い
- ・コミュニティの結束が弱くなっていると感じる
- ・祭りの参加者は、関係者ばかり。様相を変えた方がいいのかなと思う
- ・地域の祭りなど前日に知ることが多かった
- ・南大分の文化やコミュニティの場所は小・中学校しかない
- ・ボランティアの減少、住民の交流少ない、決まった人だけ
- ・南大分全体の「祭り」が無い

②各所道路渋滞の悪化

- ・庄の原は通勤時に車がたくさん来る
- ・田中三差路の朝の混雑
- ・慢性的な交通渋滞が長年解消しない
- ・交通量が多く朝夕の渋滞がひどい(田中三差路など)
- ・三ヶ田町の歩道が狭い

③狭隘道路等未整備

- ・道路が狭く行き止まり(袋小路)が多い(南大分など)
- ・畑中、田中、豊饒、明礪、羽屋の道路が狭い
- ・道がせまいので自転車に乗るのが危ない
- ・大石町など道幅がせまい
- ・畑中～明礪の道路が狭く、速度標識が無い
- ・大雨の時、水が出て道路がつかる
- ・左折する時曲がりづらい
- ・幹線道路の工事が多い
- ・国道 442 号 田中三差路～明礪橋間の歩道が狭く、朝の通学・通勤時刻は自転車も多く危険である。拡幅必至
- ・明礪交差点は右折ポケットもなく、右折信号もないため渋滞が発生する
- ・明礪交差点から三ヶ田町間の市道(通称:旧道) 特に通勤・通学の時間帯は自動車・自転車の通行量が多く、児童の通学路となっているが狭い

④安全が確保されていない通学路

- ・通学路が狭く、通学路の整備や見守りが必要
- ・通学路など、古国府地区道路拡幅の整備
- ・通学路の歩道の中に電柱があり邪魔
- ・道路が狭く初瀬井路に蓋が無い。通学路が危険

⑤老若男女誰もが楽しめる公園未整備

- ・ボール遊びのできる広さの公園が少ない
- ・都市公園計画(田中町)が実現されていない
- ・大規模な都市公園がひとつしかない
- ・老人が喜ぶ、子供が喜ぶ、災害時に人が集まる、大きな公園が無い

⑥狭い駅前広場

- ・駅前が狭い
- ・南大分、古国府駅とも駅前広場といえるものがない

⑦防災対策への不安(河川)

- ・大雨で堤防が決壊しないか(大分川賀来付近)
- ・南側は冠水率が高く、城南の方は地すべりの危険性がある

⑧バス等公共交通機能の低下

- ・公共交通が不便
- ・バスの便が少なく、古国府線と 442 号線、197 号線間のバスの連絡が悪い・県病にバス一本で行けない
- ・道路が狭く、畑中にバス停はあるが、日に何台来るかといった状況。大きいバスでなくてよいので、改善を

⑨商業施設の不足

- ・本屋が少ない、大型店がない、中心地がない、商店街が無い
- ・大きなショッピングセンターが不足

⑩進まない不登校対策

- ・中学生の不登校生がクラスに 1～3 人ぐらい存在する

⑪地域が求める各種未解決課題

- ・城南は坂道が多い
- ・緑が少ない
- ・農業を体験できる場所が少ない
- ・中心市街地に近いのに、人を呼びこめるものがない
- ・平日は高齢者だけの街になっている

T 脅威

①少子高齢化社会に伴う負の要因

- ・高齢者が多い(増加)
- ・特養施設が少ない
- ・高齢者、病院、運動
- ・子どもが遊ぶ姿が見えない

②地域のつながりの希薄化

- ・地域行事等への人的協力が少ない
- ・個人主義の台頭、地域の連帯感の低下
- ・集合住宅の増加
- ・就業形態の多様化
- ・70 歳まで働く人の増加(就労期間が長くなった)

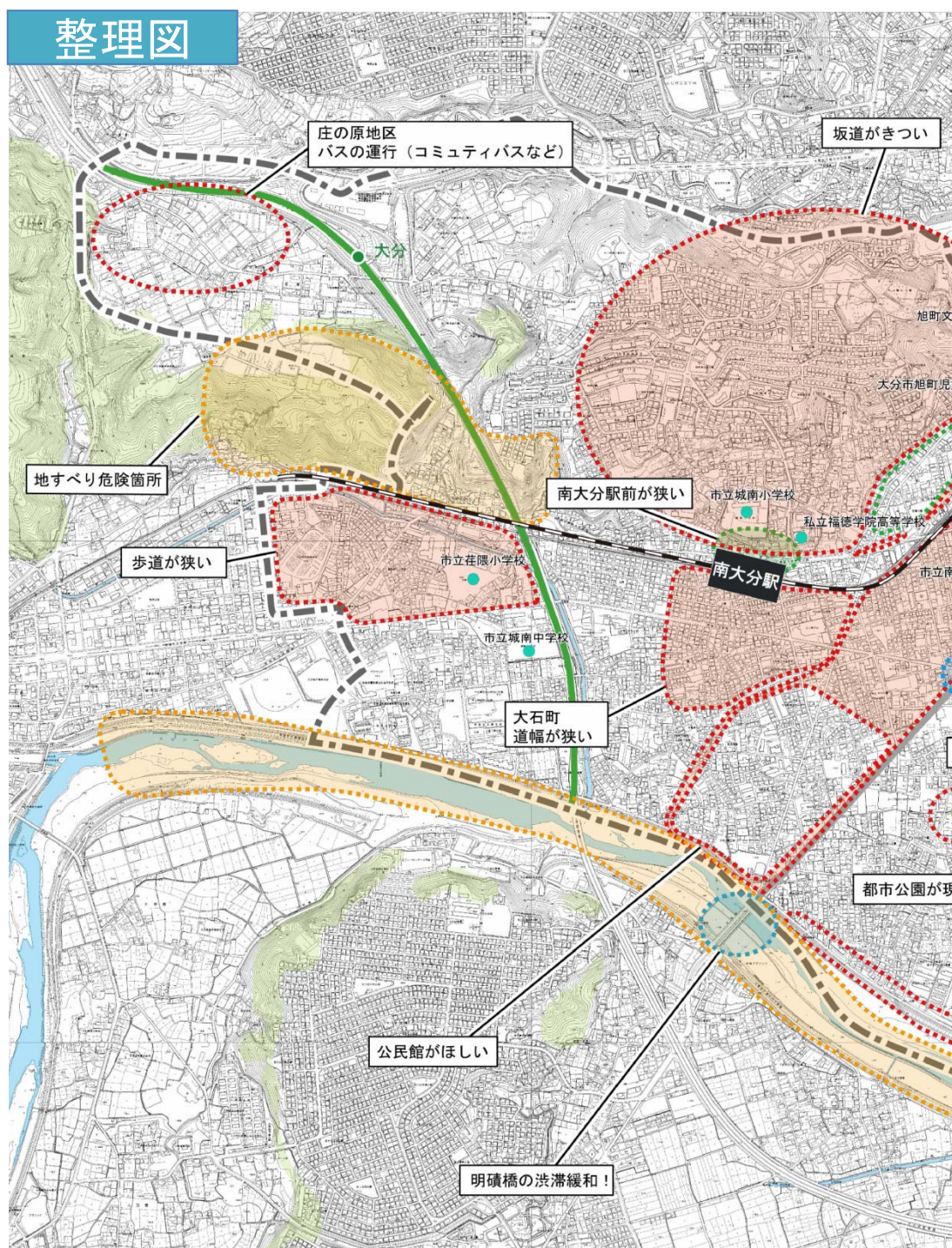
③自然災害に対する不安

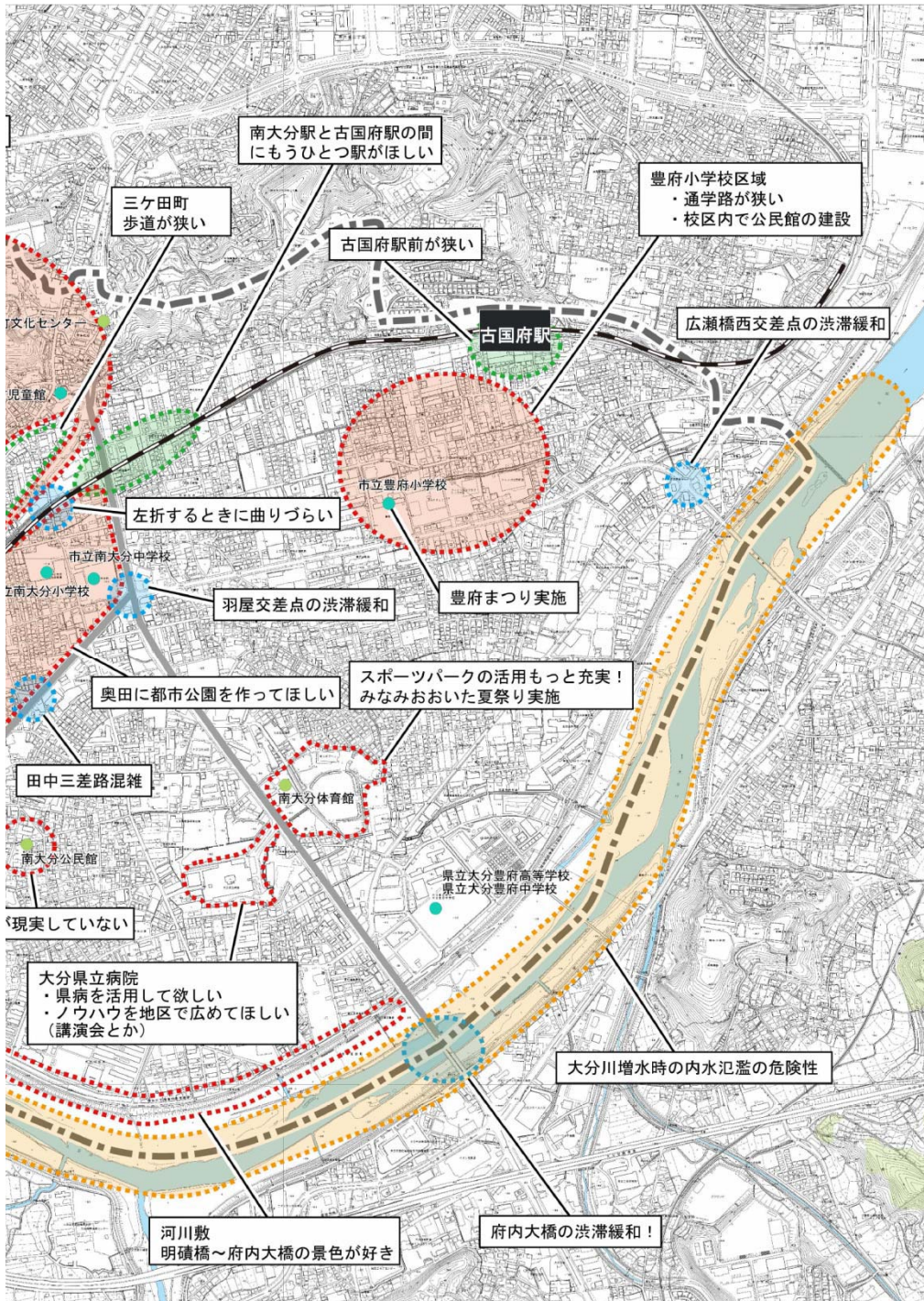
- ・自然災害が怖い
- ・避難場所などの道路網整備
- ・地震の時に逃げられるか? 助けられるか?
- ・行き止まりが多い。避難が心配
- ・高齢者のちょっとした困り事
- ・避難の際、どの弱者を誰が安全なところに連れていか
- ・避難場所が少ない
- ・避難場所を知らない(避難訓練実施の必要性)
- ・大分川増水時の内水氾濫の危険性

2 南大分地域の整理図

SWOT分析により出された、地域の強み・弱み・機会・脅威について、南大分地域の地図で位置関係を整理すると以下のとおりになります。

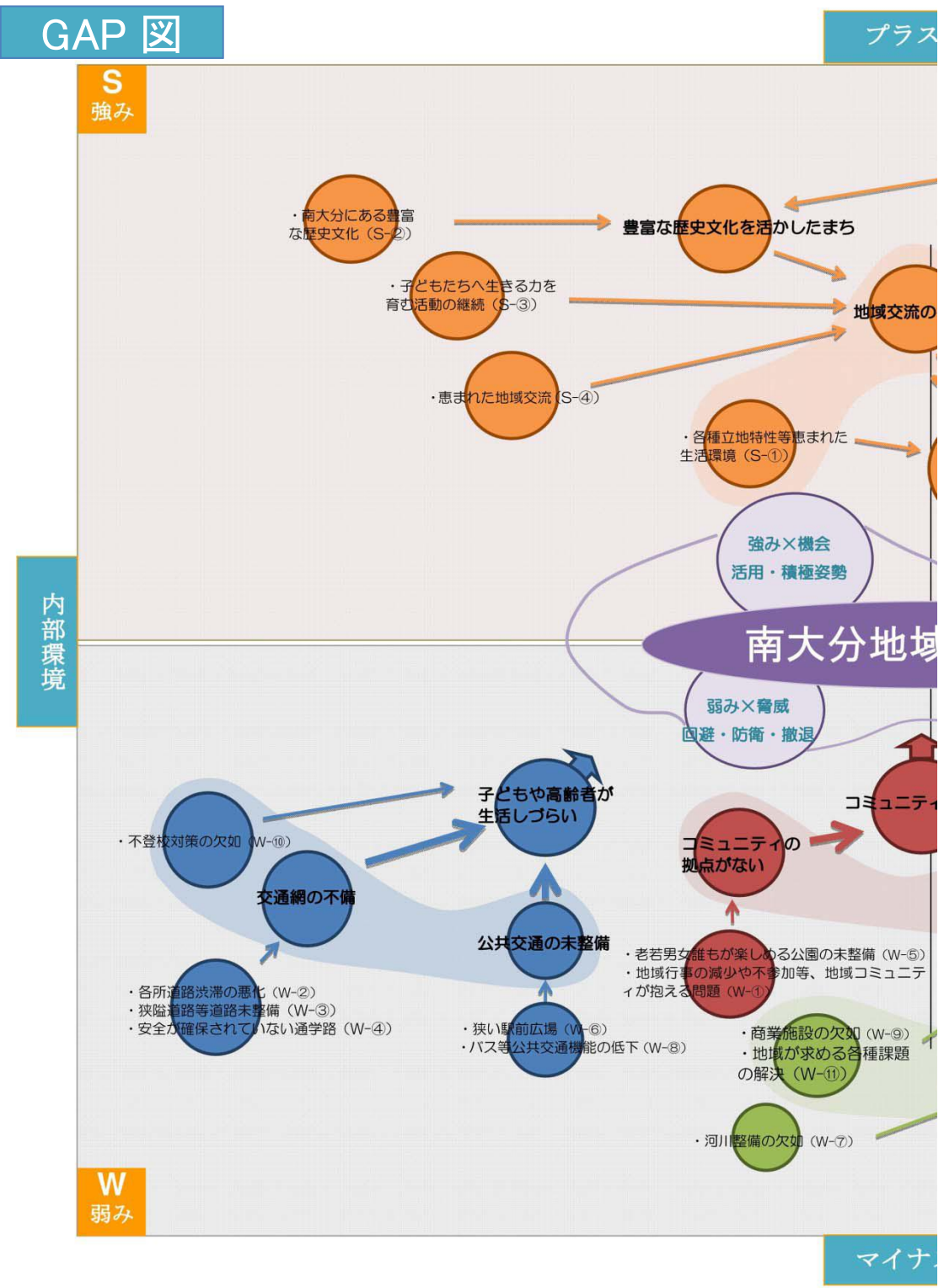
地域ビジョン会議では、これらの意見を基に、地域のあるべき姿・将来像や将来像実現に向けた具体的な取組などについて、議論・検討を行いました。

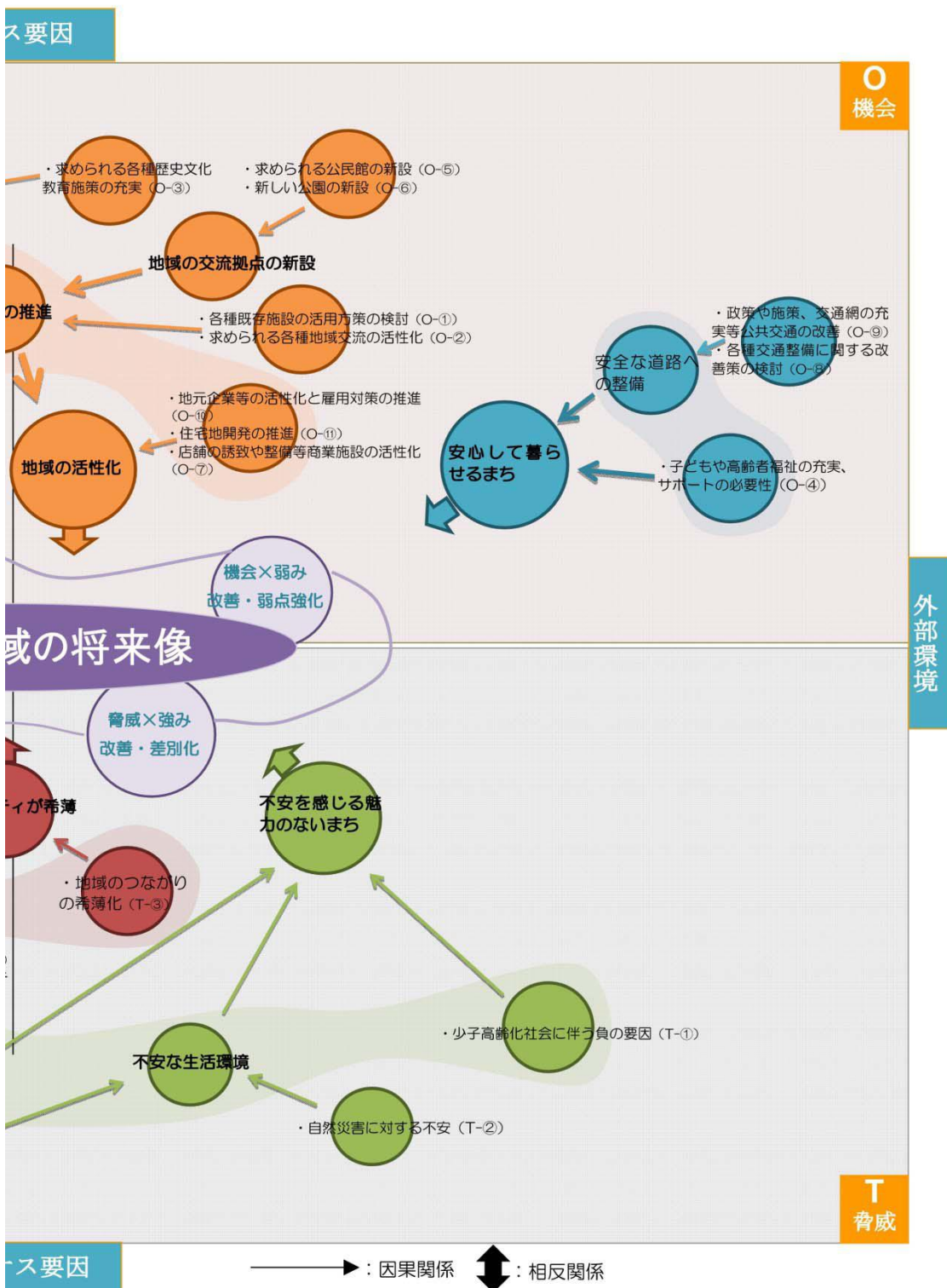




3 地域の将来に向けて

地域ビジョン会議では以下の図(GAP 図)を用いながら、SWOT 図で整理した意見を、プラス要因とマイナス要因でまとめ、関連づけを行いながら「地域が実現したいと考えるまちの将来像」(まちづくりのコンセプト)を導き出すため、議論を深めてきました。





第5章 地域のあるべき姿

1 地域の将来に向けた魅力・課題

第4章の「地域の分析」により、南大分地域の将来に向けた魅力や課題の整理を行いました。地域のさらなる発展のために、地域のあるべき姿(将来像)を設定し、魅力を活かし課題を解決するための取組を検討しました。

■南大分地域の「魅力」

◆恵まれた立地特性

北側には都心機能を有する中心市街地が、また、南側には大分川が流れる自然環境があります。また、古国府駅や南大分駅といった交通インフラ、県立病院をはじめとする医療機関、小・中学校などの教育機関、南大分スポーツパークが立地しており、広域都心に位置づけられる本地域は、立地特性に恵まれた地域です。

◆豊かな歴史文化

本地域には、豊後国府として大分の中心であったころの史跡が数多く存在しています。

■南大分地域の「課題」

◆悪化する道路環境と利便性の低い公共交通機関

本地域には、狭隘な生活道路が数多くあり、安全が確保されていない通学路があるほか、国道210号、国道10号などの幹線道路においては、朝夕の渋滞が慢性化するなど、交通面での問題を抱えています。

また、2つのJR駅周辺は寄り付きが悪く、利便性の高いバス路線とのネットワークの形成が課題となっており、高齢者をはじめとした交通弱者には利用しにくい状況があります。

◆地域コミュニティの場となる施設の不足

本地域では、地域コミュニティの場のひとつである校区公民館が無く、地区公民館である南大分公民館は建設から30年以上を経て老朽化しています。

◆地域の憩いの場、防災拠点としての公園の不足

公園は日常的には子どもたちの遊び場、お祭りなどの地域の交流の場であるだけでなく、非常時には避難場所や防災拠点としての役割を果たすものですが、区画整理がなさ

れていない本地域では、点在する公園のほとんどが3千㎡以下の小規模なものであり、1万㎡を超える規模の公園は南大分スポーツパークのみです。

2 地域の将来像（コンセプト）

南大分地域ビジョン会議では、これまで、地域の現状を把握し、魅力や課題を整理するとともに、課題解決に向けた地域のまちづくりの方向性についての検討を行い、以下の通り地域の将来像を決定しました。

後世に自慢できる住みたくなる街、みなみ大分

将来像への思い

このコンセプトには、南大分地域が、子どもからお年寄りまでのすべての人たちにとって、安全・安心に暮らすことができ、愛着と誇りが持てる地域となることを目指していきたくの思いを込めています。



第6章 将来像実現に向けた取組

1 これからのまちづくりに向けた市長への提言

これまで、地域まちづくりビジョンの策定に向けて、改めて自らの住む地域を見直すとともに、今後、地域と行政が一緒になってどのような取組を進めていくべきか議論を深めてきました。

わたしたち南大分地域の住民が描く地域の将来像の実現のため、これからのまちづくりに向けて、次のとおり提言します。

提言1：道路をはじめとする生活基盤の整備・充実

道路環境の改善や、JRやバスといった公共交通機関の利便性の向上が図られることなどにより、居住する高齢者や子どもをはじめとする交通弱者の安全・安心が確保されるとともに、誰もが快適に移動できる公共交通体系が構築されることを望みます。

提言2：人が集い、人が繋がる地域コミュニティの形成支援

住民交流はもとより、伝統文化の継承や、災害対応、子育てや子どもたちの学びの観点から、幅広い世代が集える場として地域コミュニティの拠点を整備するとともに、地域の多様な主体が繋がり、住民自らが地域の課題を発見・認識・共有し、解決していくための取組について支援を望みます。

提言3：郷土愛の醸成と豊かな歴史・文化を活かした魅力発信

地域住民が改めて郷土の素晴らしさを認識し、愛着を深めるとともに、本地域の地域資源である歴史文化を活かし、地域外に本地域の個性と魅力を発信するための取組について支援を望みます。

2 提言に基づく提案事業一覧

地域ビジョン会議では、地域の将来像を実現させるため、市長への3つの提言に基づき事業の提案を行い、個人、地域、行政の役割分担についての検討を行いました。それらの提案事業については下記のとおりです。

No.1

関連	提言1		
事業名	交通渋滞の緩和対策		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・バイパスを整備するなど、渋滞の緩和対策を実施 ・幹線道路のみならず、狭隘な生活道路においても朝夕の通勤による渋滞が慢性化している。 ・右折ポケット整備などの道路改良【整備箇所例：国道442号(田中五差路)、大分挾間線(田中西交差点)、小挾間大分線(南大分交差点・竹の上)】 		
役割分担	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞箇所の把握 ・公共交通機関の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞箇所の把握 ・公共交通機関の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県への働きかけ ・狭隘な生活道路の拡幅

No.2

関連	提言1		
事業名	高齢者に優しい公共交通網整備		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がバス利用時に路線の乗り換えが安全で容易にできるよう場所を確保・整備する(バスロータリーを設置)。 ・高齢者には歩道橋などを渡りバス停へ移動するのは大変であり、整備がなされれば、1人で通院や買い物などができるようになる。 		
役割分担	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との実態調査(アンケート調査など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズに合った効果的なネットワークの構築 ・現地実態調査 ・南大分駅と古国府駅の駅前広場の整備など交通結節機能の強化

No.3

関連	提言1		
事業名	安全・安心な道路整備		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・最優先で危険な通学路の整備を実施する。 ・道路幅が狭いことから、電柱を片側に寄せるなどの整理をし、児童が転落しないように、通学路にある初瀬井路には蓋かけをする。 		

第6章 将来像実現に向けた取組

	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・道路幅の狭い箇所を調べる。 ・小学校、中学校の通学路で危険箇所を調べる。 ・交差点など出会い頭で見にくい箇所の特定 ・常に渋滞する場所、時間帯で渋滞する場所の特定 	<ul style="list-style-type: none"> ・電柱の建て替え、新設の際に、狭い箇所(道路、歩道)では私有地等に設置をお願いします。 ・道路の両側にある電柱の整理 ・新設宅地が出来た際に追加で増設された電柱の整理 ・多方面に働きかける。必要なら地権者等に地域として嘆願する。土地の買収後、道路拡張で余った土地の活用は地域で検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・南大分地区を中央地区と分けて都市基盤整備を考えること。 ・水路(初瀬)との話で井路の蓋を全部にすること。 ・長期的に、狭い道路の両側からの土地提供の確認、買上げてもらいたい。 ・迂回路整備 ・現地視察、実態調査、関係機関との調整、国・県への要請、予算化(重大事故等が発生する前に実施してもらいたい。)

No.4

関連	提言1		
事業名	コミュニティバス事業		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・南大分の病院、駅、まちなかを100円で周遊できるコミュニティバスの運行 ・誰もが、気軽に病院や買い物、学びに出掛けることのできる環境づくり 		
	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・実現できたら、できるだけ多くの方が利用するよう働きかける。 ・各自が希望する場所・ルートでの意思表示をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの意見を集約して行政に働きかける。 ・個人の意見を集約し、地域としての希望場所やルートを選定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金等を出して車を確保する。 ・委託業者、運行ルートの決定、停留場所の整備

No.5

関連	提言2		
事業名	各校区公民館の新設		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・校区公民館を新設する(南大分地域には校区公民館が無い現状)。 ・校区単位のイベントが行える規模の公民館を新設し、子どもからお年寄りまで利用できる校区のコミュニティの場とする。 ・公園を併設した公民館とすることで、災害時の避難場所としても位置付ける。 		

	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・建設後の維持管理のお手伝い。 ・募金活動への協力 ・地権者への働きかけ ・校区公民館の必要性をできるだけ多くの人に理解してもらうよう働きかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館建設の為の寄付金募金活動 ・校区内各種団体間の連携を密にして、校区をあげて建設の必要性をアピールして気運を盛り上げ、必要な資金づくりに理解と協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市による土地の取得・提供等の検討 ・公園は大分市が整備する。 ・建設費等の財政的な支援、運営指導

No.6

関連	提言2		
事業名	南大分公民館の新設		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・南大分公民館を利便性の高い場所へ移転し、施設を充実させる。(学習スペースの設置、駐車場、駐輪場の拡充、公園とこどもルームの併設など) ・若い人たちの勉強の場をつくとともに、公民館に南大分の歴史に関する展示を行うことで郷土の誇りを醸成する。 ・公園とこどもルームを併設することにより、子どもから親、お年寄りの世代まで集えるコミュニティの場とする。 		
役割分担	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが歴史に興味をもつには、その親や学校の先生方が歴史をそれなりに知っておくことも重要なので、各校区にあった勉強会の必要性を広める。 ・南大分公民館の利用を促す。 ・公民館(南大分)の行事や講座との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の利用を促す際、地区全体の住民がこぞって「これからの子どもたちのために」という意識をもつことが必要。そのためには地区や4校区に居住する人で、南大分の歴史・文化・地域性・南大分出身の偉人を熟知している方を探す。 ・土地の提供、理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちや高齢者が勉強するなら「南大分公民館でやろうよ!」といえるような学習スペースを作るための広い敷地、駐車場、駐輪場を確保する。 ・南大分公民館の歴史に詳しい学芸員の派遣支援 ・公民館に写真や絵で歴史の流れを展示 ・公民館の新設と公園の整備及びこどもルームの設置

No.7

関連	提言2		
事業名	子どもと高齢者のふれあい事業		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども(親含む。)と高齢者が一緒に料理をして食事をする場を設け、コミュニケーションをとる。 ・高齢者のQOL(クオリティオブライフ)向上と子どもの居場所づくり ・南大分の飲食店などを利用することにより、地域活性化につなげる。 		

第6章 将来像実現に向けた取組

	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・知人にPR ・学校、保育園、幼稚園、地域コミュニティに周知 ・他イベントに参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画、運営 ・場所、物の提供 ・活動周知 ・中小企業の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動周知 ・活動費の助成 ・継続的支援

No.8

関連	提言2		
事業名	南大分地区各種団体連合会		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・南大分地区にある各種ボランティア団体等のアドバイザー的な組織を地域で立ち上げる。 ・4校区の課題の集約や、解決の成功事例の共有、各種団体への支援などを実施 ・各種団体の参加者の増加と人的交流を促進し、地域活性化につなげる。 		
	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・組織図(表)・規約作り ・意見集約 ・フィードバック ・解決策の企画実施支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業への支援(連絡網、情報提供) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供、自治体、団体の紹介 ・通信交通費等の費用支援 ・成功時には本取組を各地区へ広げる

No.9

関連	提言2		
事業名	中学生(小学校高学年を含む。)と高齢者のペア活動による安全確認！		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と子どもがペアとなり、日常は高齢者が見守りを、非常時は子どもたちが安否確認など助け合いを行う仕組みを作る。 ・地域の絆、こころの優しさづくりや連帯感が生まれる(どうやってペアを作るか、個人情報関係が課題)。 		
	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに該当する児童・生徒名簿を作成する(保護者の同意が必要)。 ・地域間の人数調整(高齢者が多い地区、少ない地区、児童・生徒が多い地区、少ない地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに該当する高齢者から同意を得られた人のリストを作る。 ・年に数回、顔合わせや交流する場所(公民館等)の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに該当する高齢者のリストアップ ・児童、生徒とのペア作りに賛同するか意思確認(アンケート、郵送)

No.10

関連	提言2		
事業名	地域住民同士の交流の促進 ～皆の顔がわかるまちづくり～		
内容	<p>・幅広い世代が参加できるイベントの開催(運動会、春のお神楽、鑑賞会など大人から子どもまで集まるイベントを企画)</p> <p>・いろいろな行事への参加者が固定化し、減少傾向にある中、関心度の高いイベントを開催し、連帯感を醸成する(自治会の後継者選びにもなる。)</p> <p>・人と人とのつながりが生まれることにより、住みやすいまちになる。</p>		
役割分担	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の企画・立案への参加 ・地域への呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の企画・立案への参加 ・参加者の募集 ・行事の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の派遣 ・施設の提供 ・費用がかかる場合は資金の助成 ・空き家対策、近居・同居への支援

No.11

関連	提言2		
事業名	子どもから高齢者まで健康なまちづくり		
内容	<p>・スポーツパーク、河川敷を整備し、歩こう会、サイクリングのイベントなどを実施</p> <p>・子どもから高齢者までの健康づくり</p>		
役割分担	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの参加 ・参加の呼び掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営の組織づくり ・案内板の設置 ・各種イベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクル ・運営補助金 ・トイレ整備、街灯整備、健康器具の設置

No.12

関連	提言2		
事業名	河川を活かしたまちづくり		
内容	<p>・昔盛んだった明礮の屋形船を復活させるなど、河川の利活用を図る(昔は、川が交通手段の一つでもあった。)</p>		
役割分担	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・地区に広報、PRをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内大橋or明礮橋付近で花火大会を復活する。 ・各種イベントの実施 ・バードウォッチングなど河川で行われるイベント間での連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・資金面での支援

第6章 将来像実現に向けた取組

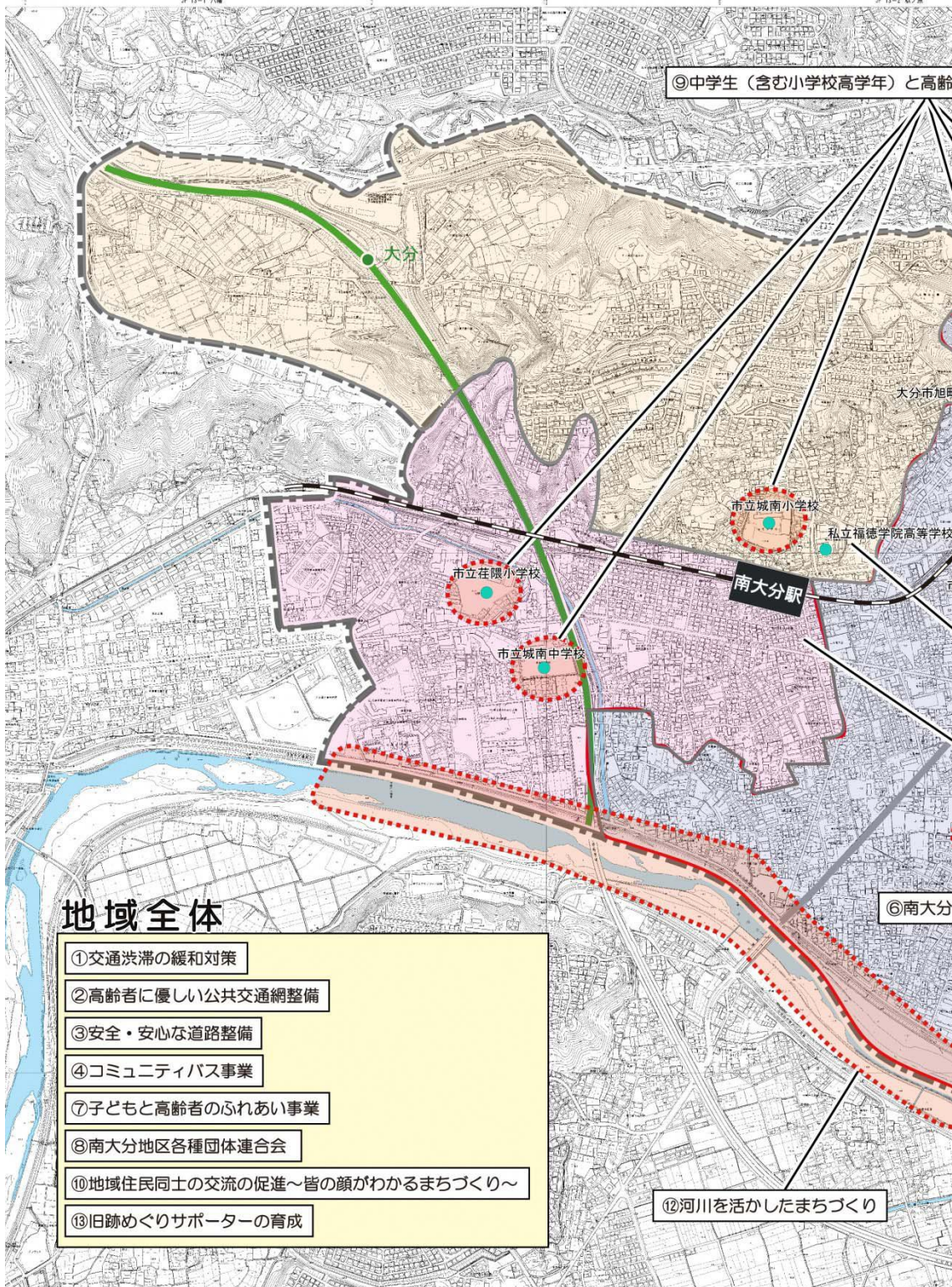
No.13

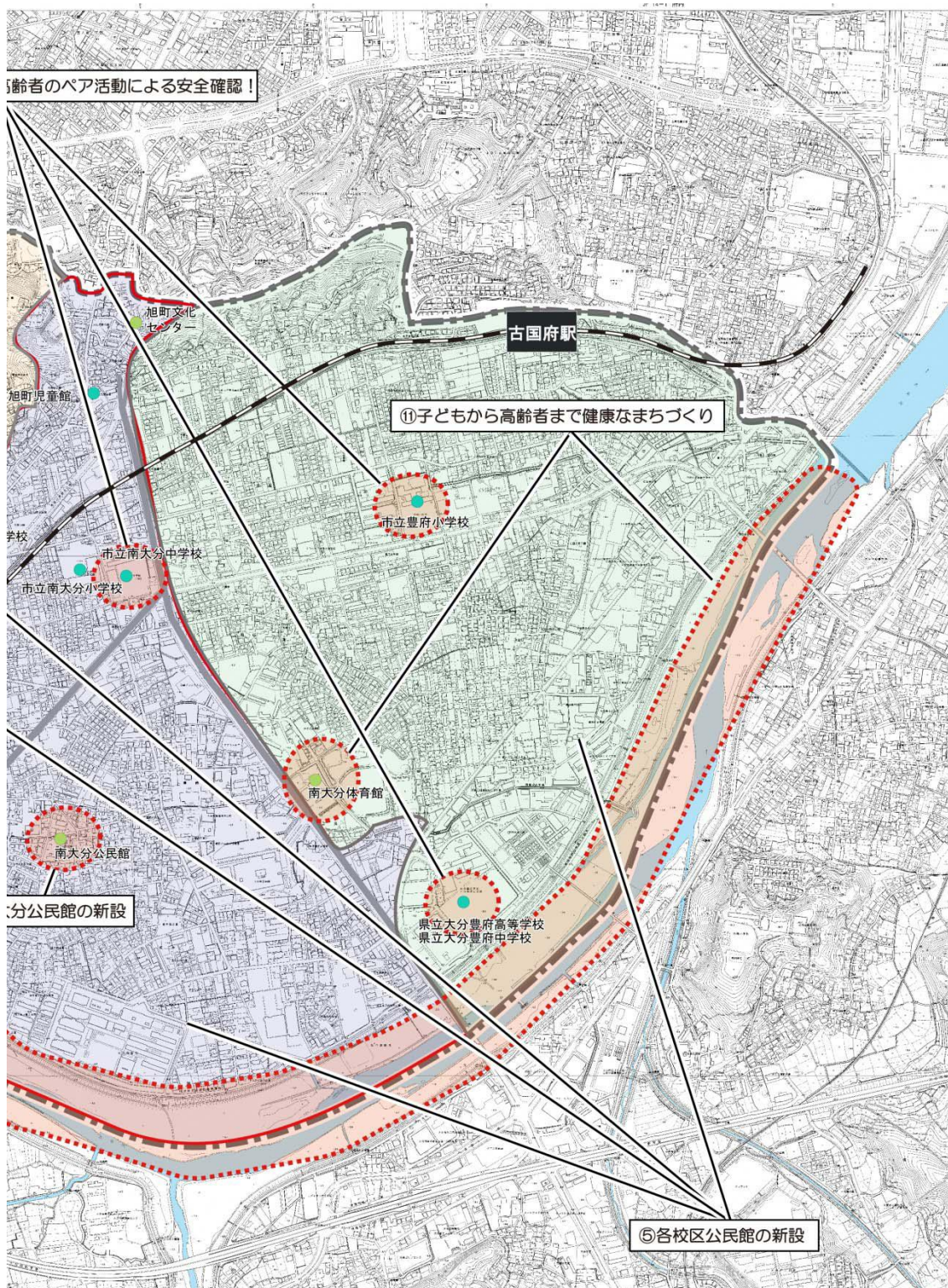
関連	提言3		
事業名	旧跡めぐりサポーターの育成		
内容	<p>・子どもや一般向けに、南大分の歴史と旧跡を教える講座を実施し、ガイドスキルを身につけてもらう。</p> <p>・旧跡のマップづくりや周遊コースづくりをし、月1回程度の散策イベントを実施する(人を呼び込む。地域の人の郷土愛を育む。)</p>		
役割分担	私ができること	地域でできること	行政に望むこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の所在地等の確認、歴史の調査 ・歴史上の基礎知識講座と旧跡めぐりの実施 ・各校区内の旧跡の調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区単位での調査 ・ネットワークづくり ・旧跡めぐりの具体的ルートの決定(地図づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動費の助成 ・表示看板等の設置(案内板) ・講師の派遣(歴史・文化の検証含む。) ・ガイドの総合テスト(○×式・現地案内ガイド)





3 まちづくりの将来像 (図)





資料編

1 策定経過

年・月	取組内容
平成29年 5月 11日	南大分地域ビジョン会議 準備会議 南大分地域ビジョン会議委員の委嘱
6月 5日	南大分地域ビジョン会議 第1回会議 南大分地域ビジョン会議顧問の参画
7月27日	南大分地域ビジョン会議 第2回会議
10月26日	南大分地域ビジョン会議 第3回会議
平成30年 2月2日	南大分地域ビジョン会議 第4回会議
5月24日	南大分地域ビジョン会議 第5回会議
7月2日	大分市地域まちづくりビジョン報告会 市長へ提言

2 南大分地域ビジョン会議委員及び顧問、事務局名簿

会 長	江 藤 英 俊	南大分自治委員連絡協議会会長(荏隈校区会長)
副 会 長	丸 田 俊 和	みなみおおいた未来創造まちづくり協議会事務局員
委 員	阿 南 惟 久	南大分校区会長
		みなみおおいた未来創造まちづくり協議会会長
	内 林 高 徳	豊府校区会長
	大 津 慧 美 子	南大分地区ボランティア代表
		社会福祉協議会
	岡 村 晰	(南大分地区会長)
	川 上 和 久	南大分青年クラブ会長
	木 本 厚 子	南大分地区青少年健全育成連絡協議会理事
	黒 田 久 美	PTA協議会(南大分中学校PTA副会長)
		城南校区会長
	関 谷 弘	城南まちづくり協議会会長
	長 吉 康 弘	学識経験者(城南小学校校長)
	波 津 久 勝 利	豊府まちづくり協議会会長
		(古国府東自治委員)
	廣 瀬 惇 子	民生児童委員
		(南大分地区会長)
牧 達 夫	NPO法人 大友顕彰会代表	
	老人クラブ連合会	
松 本 広 信	子育て支援(めだか学級)代表	
御 沓 幸 正	南大分マイタウン編集者	
渡 部 徳 三	消防団(南大分分団長)	

(計17名)

* 役職は選任時のもの

顧 問	板 倉 永 紀	大分市議会議員
	泥 谷 郁	大分市議会議員

(計2名)

■平成29年度

事務局長	縄田 睦子	企画部 審議監
事務局次長	岩尾 亮	市民部 南大分公民館 館長
	吉永 公一郎	市民部 市民協働推進課 参事
	三浦 徹也	市民部 南大分公民館 参事補
	鶴上 浩	都市計画部 まちなみ整備課 主査
	奈須 幹夫	土木建築部 河川課 参事補
	朝見 哲也	商工労働観光部 創業経営支援課 参事
	羽田野 博幸	農林水産部 生産振興課 参事補
	長田 由里	企画部 企画課 参事
	越智 理也	企画部 企画課 主査

(計10名)

■平成30年度

事務局長	縄田 睦子	企画部 審議監
事務局次長	岩尾 亮	市民部 南大分公民館 館長
	松本 紀子	市民部 市民協働推進課 参事
	安部 史明	市民部 南大分公民館 主査
	小花 裕子	都市計画部 まちなみ整備課 参事
	奈須 幹夫	土木建築部 河川課 参事補
	朝見 哲也	商工労働観光部 創業経営支援課 政策監
	羽田野 博幸	農林水産部 生産振興課 参事補
	山口 大介	企画部 企画課 参事補
	越智 理也	企画部 企画課 主査

(計10名)

3 大分市地域ビジョン会議設置要綱

(設置)

第1条 市民が思い描く地域の未来像であり、地域の特性を活かしたまちづくりの方向性についての市民の提言となる地域まちづくりビジョンを策定するため、地域ごとに地域ビジョン会議(以下「ビジョン会議」という。)を設置する。

(名称及び設置地域)

第2条 ビジョン会議の名称及び設置地域は、別表のとおりとする。

(所掌事項)

第3条 ビジョン会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1)地域まちづくりビジョンの策定に関すること。
- (2)地域まちづくりビジョンの市長への報告に関すること。
- (3)その他地域まちづくりビジョンの策定に関し市長が必要と認める事項

(組織)

第4条 ビジョン会議の委員は、25人以内とし、次に掲げる者のうちから市長が参画依頼する。

- (1)各種団体の代表者
- (2)校区会長
- (3)学識経験を有する者
- (4)その他市長が必要と認める者

(参画依頼の期間)

第5条 参画依頼の期間は、参画依頼の日から第3条に掲げる所掌事項が終了する日までとする。

(会長及び副会長)

第6条 ビジョン会議に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

- 2 会長は、ビジョン会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 ビジョン会議の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集し、会長がその議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
- 4 会議は、原則公開とする。ただし、会長が必要と認める場合は、会議に諮って、これを公開しないことができる。

(部会)

第8条 ビジョン会議は、地域内における特定の地区及び事項について調査、研究等を行うための部会を設置することができる。

- 2 部会は、会長の指名した委員を部会員として組織する。
- 3 部会に部会長を置き、会長の指名する委員をもって充てる。

(顧問)

第9条 ビジョン会議ごとに顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、市議会議員とする。
- 3 顧問は、ビジョン会議からの要請に基づき、市長が参画を依頼する。
- 4 顧問は、ビジョン会議に対し助言を行うことができる。

(報償金等)

第10条 委員に対する報償金等は、予算の範囲内で、市長が決定し、これを支払うことができる。

(事務局)

第11条 ビジョン会議の庶務を処理するため、ビジョン会議ごとに事務局を置く。

- 2 事務局の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、ビジョン会議の運営について必要な事項は、会長がビジョン会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成29年4月17日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、第3条に掲げる所掌事項が終了する日限り、その効力を失う。

別表(第2条関係)

名 称	設置地域
大分中央地域ビジョン会議	大分中央公民館の所管区域
大分西部地域ビジョン会議	大分西部公民館の所管区域
大分南部地域ビジョン会議	大分南部公民館の所管区域
南大分地域ビジョン会議	南大分公民館の所管区域
大分東部地域ビジョン会議	大分東部公民館の所管区域
鶴崎地域ビジョン会議	鶴崎支所の所管区域
大南地域ビジョン会議	大南支所の所管区域
植田地域ビジョン会議	植田支所の所管区域
大在地域ビジョン会議	大在支所の所管区域
坂ノ市地域ビジョン会議	坂ノ市支所の所管区域
佐賀関地域ビジョン会議	佐賀関支所の所管区域
野津原地域ビジョン会議	野津原支所の所管区域
明野地域ビジョン会議	明野支所の所管区域

(備考) 公民館の所管区域のうち、支所の所管区域は除くものとする。



南大分地域ビジョン会議